

227 転移骨腫瘍で欠損像およびびまん性異常集積を示した骨シンチグラムの検討

竹村猛雄、西本儀正（大阪市大、2内）
大村昌弘、池田穂積、浜田国雄、福田照男
越智宏暢、小野山靖人（同、放） 松本茂一
日高忠治、村上祥三、中井俊夫（日生病院、放）

骨シンチは悪性腫瘍の骨転移巣の早期検出に最良の方法とされている。通常骨転移巣はhot spot像として描出されるが、中にはX線学的に骨転移巣が明らかであるにもかかわらず、骨シンチ上欠損像や極めて淡い集積を示す例や、あるいは骨全体がびまん性の異常に強い集積像を示す例がある。すなわちわれわれは①転移性骨病巣の経過観察中の骨シンチで転移巣が増大するに従いbone seeking agentが転移巣の辺縁部にみられその中心部が欠損となった例、②原発巣陽性描画の目的で施行したガリウムシンチで骨転移巣に強い集積を示し、骨シンチでは淡くあるいは欠損として描出された例、③骨転移が骨全体にみられ、骨シンチではびまん性の異常につよい集積を示し一見正常骨シンチを思わせる例などを経験している。これら骨シンチ読影上pit holeと思われる症例を供覧し、骨シンチと他の放射性医薬品を用いたシンチの併用の有用性、撮像条件の重要性などについて報告する。

229 骨シンチグラムの臨床的有効度測定に関するプロスペクティブスタディ

町田喜久雄、西川潤一（東大） 飯沼 武、松本徹、館野之男（放医研） 内山 暁、石川達雄（千大） 小山田日吉丸（国立がん） 川上憲司、三木 誠（慈大） 久保敦司、高木八重子（慶大） 中島哲夫（埼玉がん） 村田 啓、飯尾正宏（養院） 山崎統四郎（東女医大） 油井信春（千葉がん）

日本アイソトープ協会のエフィカシー小委員会の活動として、関東地方の核医学診療施設を中心に、乳がん及び前立腺がんの術前骨転移検出における骨シンチグラムの有効度をプロスペクティブに検討する。データ記入シートを3種類作成した。第1のシートは、骨シンチ施行前の骨転移の可能性について、骨の各部位について転移有無の確信度を記入、第2のシートは、骨シンチを読影して転移の有無の確信度を記入する。第3のシートは、骨転移の有無に関する最終結果を記入する。この3者の比較より、シンチグラムの有効度を判定する方法である。

228 骨シンチグラム像。

—骨転移の経時的変化—

柚田勝輝、小野 慈、川島博之、竹林茂生、
中島康雄、朝倉浩一、松井謙吾、（横浜市・放）
野田丈子、田中利彦、（神奈川県成セ・放）

骨転移を経時的に追跡してみると、骨シンチ所見の改善をみる症例を経験する。骨転移の治療は、その状況に応じ、ホルモン療法、化学療法、放射線療法等が選択されるが、骨転移の治療効果の判定に、骨シンチが適確な情報を与えているかどうかを検討した。

1976年より1979年の4年間に検査した症例のうち骨転移があり、経時的に骨シンチにて2回以上追跡出来た53例を検討の対象とした。乳癌28例、肺癌11例、前立腺癌8例、その他6例である。

骨転移部位数、骨転移部位の大きさの変化を指標に悪化、不変、改善、と区別してみると、乳癌では28例中21例、肺癌では11例中7例、前立腺癌では8例中3例に悪化が観察された。全体では53例中34例は悪化し、不変は10例、改善は9例であった。

骨シンチ所見の変化は、理学所見、X線所見の変化剖検所見と概略一致する結果を得たが、骨シンチ所見上の改善が観察され、理学所見、X線所見等の改善がない症例も少数例経験した。骨シンチ所見の変化と治療法、観察時間との関係についても考察を加える。

230 Dynamic Bone Scintigraphyによる骨疾患の解析（第2報）：転移性骨腫瘍診断への応用。

熊野町子、土屋文夫、田村健治、浜田辰巳、石田修（近畿大、放） 坂下太郎、船越猛、川井弘美（同、中放） 梶田明義（大阪成人病セ、放）

Dynamic Bone Scintigraphyを骨転移の検索に応用し、有意義な情報が得られたので報告する。

対象は転移性骨腫瘍40例並びにその疑い10例である。転移性骨腫瘍は原発巣の組織型並びに骨病変（硬化型、溶骨型、混合型、病的骨折）の違いにより、血管相において特徴あるRIの集積状態を示した。また、全例血液プール相（1分から3分）で集積像が認められた。一方、外傷性骨折（陳旧性）や変形性脊椎症では早期相（10分後）からRIの集積が現われ、骨転移との鑑別は可能であった。さらに、Static Imageで正常所見（レ線所見も異常なし）を呈する早期の骨転移症例ではDynamic Imageの血管相から血液プール相（10秒から3分）迄にRIの集積像が認められた。

このようにDynamic Bone Scintigraphyを行い、骨病変部位におけるRIの経時的変化を観察することにより、骨転移の診断に有用な情報が提供され、早期の骨転移の鑑別診断に役立つ。治療効果の判定への応用についても報告する。